

「震災時のアスベスト対策を考える集い」

in 名古屋

—東日本大震災被災地のアスベスト調査から—

第1部 報告 ・震災被災地のアスベスト調査から（東京労働安全衛生センター 外山尚紀）
・名古屋市内アスベスト調査報告（愛知教育大学保健環境センター 榊原洋子）
・名古屋市営地下鉄六番町駅石綿飛散事故報告（名古屋労災職業病研究会 成田博厚）
・教員中皮腫裁判の経過（中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会東海支部 宇田川かほる）ほか

第2部 体験ワークショップ

- ・チェックしよう！建材の中のアスベストの見分け方
- ・着けてみませんか？アスベストから身を守る防じんマスクの付け方

と き 2015年2月22日（日）13:00～16:00

ところ 名古屋市瑞穂生涯学習センター 視聴覚室 住所：名古屋市瑞穂区惣作町2-27-3

アクセス：地下鉄「妙音通」下車1番出口より徒歩8分 TEL052-871-2255

参加無料

共 催 特定非営利活動法人東京労働安全衛生センター

名古屋労災職業病研究会

中皮腫・じん肺・アスベストセンター

〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル5F TEL：03-3683-9765

〒466-0815 名古屋市昭和区山手通5-33-1 TEL：052-837-7420

e-mail: center@toshc.org http://www.toshc.org/

昨年6月、大気汚染防止法改正にあたって、各自治体においては条例の見直し、条例の新たな制定、マニュアル、要綱の改定等アスベスト対策が見直されているところです。さらに大気汚染防止法改正に引き続き、石綿障害予防規則の改正、文部科学省の学校のアスベスト保温材等の一斉調査等の行政のアスベスト対策が次々に打ち出されています。しかし、これらのアスベスト対策は改正内容が不十分であり、文部科学省の調査も拙速のそしりを免れません。

東日本大震災の被災地のアスベスト調査から、解体工事現場のアスベスト含有成形板のずさんな扱いによるアスベスト粉じん飛散の実態も見えてきました。大震災はいつどこで発生するかわかりません。東南海地震が東海地方でも起こることが予想されています。

今回の報告会では、名古屋市内の解体工事に伴うアスベスト含有建材調査を報告し、リスク回避に有効なリスクコミュニケーションの在り方について考えていきたいと思えます。アスベストによる環境汚染や健康被害を防止するためにどのような取り組みが求められるか、ともに考え、行動していきたいと思えます。議員の皆さん、自治体の関係職員の皆さん、そして住民の皆さんもぜひご参加くださるよう呼びかけます。

この催しは独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。